

トピックス | 長期育成指針 回答用紙

【回答者情報】 *全ての項目に記入してください

1. メールアドレス _____
2. 氏名 (フリガナ) _____
3. 生年月日 (西暦) _____ 年 _____ 月 _____ 日
4. メンバーID (5から始まる9桁) _____
5. 所属都道府県 _____

【日本の課題】

日本の課題として認識すべきこととして、適切なものを2つ選んでください。

- 人口爆発
- 人口減少
- 男女人数の不均衡
- 軍事力の増強
- 人口構成の不均衡

【柔道を取りまく課題】

「柔道人口の減少」に関する課題認識として、適切なものを2つ選んでください。

- 柔道人口の減少は、主に総人口減少に原因があると思われる。
- 柔道で培われる様々な資質は、柔道界の発展のためだけに最善活用されるべきである。
- 柔道をはじめとする日本のスポーツ強化システムは、発育発達段階を踏まえた「革新的パスウェイ」に向かう必要がある。
- 柔道をはじめとする日本のスポーツ強化システムは、偶然性に委ねる「伝統的パスウェイ」に向かう必要がある。
- 柔道で培われる様々な資質が、様々な実社会で最善活用されるべきである。

「大会の高度化・低年齢化と個人差や性差の軽視」に関する課題認識として適切なものを2つ選んでください。

- 男女平等の視点から、柔道の指導・実践においては男女の区別をすべきではない。
- 全ての柔道大会で適用する審判規程は、国際柔道連盟審判規程に統一すべきである。
- 柔道の指導において、勝利を追求する姿勢は適切ではない。
- 柔道の価値は勝利だけにあるのではなく、それ以外の多様な価値も享受することが大切である。
- 発育発達の個人差、性差など、多様性を考慮した指導が必要である。

「発育発達の遅速の影響が十分に考慮されない指導体制」に関する課題認識として適切なものを2つ選んでください。

- 発育発達の途上にある柔道実践者は様々な成果が出やすいため、より高いレベルでの競技会に積極的に挑戦すべきである。
- 早期専門化を促進させているのは、児童生徒等の柔道実践者だけではなく、指導者や保護者等のアントラージュである。
- 競技成績には相対年齢効果が反映され、過度に勝敗にこだわると早期ドロップアウトやバーンアウトに陥りやすい。
- 柔道は柔道着を介して行われるスポーツであるため、体格差の影響はそれほど大きくはない。
- 早期専門化を進めていかないと、国際的な競技力向上につながらないと考えられる。

「連続性のある普及（発掘）・育成・強化体制と練習環境（道場）の全国的な整備不足」に関する課題認識として適切なものを2つ選んでください。

- 柔道指導者は柔道指導の専門家であり、発育発達途上にある児童生徒の心理的発達の特徴を修める必要はない。
- 小学生、中学生、高校生の柔道実践者は、進学を契機に大きく減少する傾向がある。
- ジュニア期の柔道の普及・育成・強化体制に、全日本柔道連盟が積極的に関与していく必要がある。
- 障害のある柔道実践者や女性の柔道実践者等が、個別に練習できる環境を増やすべきである。
- ジュニア期の柔道の普及・育成・強化体制は、今後も学校教育（運動部活動）を中心に展開されるべきである。

「柔道指導者等のアントラージュへの教育機会の欠如」に関する課題認識として適切なものを2つ選んでください。

- 中高齢者を対象にした柔道等、生涯柔道プログラムを提案できるアントラージュを増やすべきである。
- 指導者や保護者等を対象にした教育機会の確保は、各都道府県連盟（協会）によってなされるべきである。
- 柔道のアントラーズの量と質の拡充は、学校等の教育機関で進めていくべきである。
- 柔道指導において最も重要なのは経験であり、指導者は過去の経験に基づいて自信を持って行うべきである。
- 「公認柔道指導者資格制度」の運用が開催されたが、柔道指導者の質的向上が進んでいないケースがある。

「柔道を学ぶ意義の理解の欠如」に関する課題認識として適切なものを2つ選んでください。

- 柔道をはじめとしたスポーツでは、勝利追求を最大の意義にすべきである。
- 柔道における伝統的な所作を守ろうとすることで、克己の心を養うべきである。
- 柔道を通して他者を制御することを学ぶが、その素養は自己の人生実現にとっても必須である。
- 柔道を通して、倫理観、正義や公正などについて学ぶべきである。
- 柔道実践者は柔道を学ぶ意義を、自分たちの中で共有すべきである。

【全柔連が目指す長期育成の方向性】

「柔道の多様な価値を享受する機会の確保とアスリートパスウェイの提案」に関して、全柔連が目指す方向性として適切なものを2つ選んでください。

- 未来志向型の事業推進のため、過去の全柔連登録人口の減少要因の検討は行わない。
- 革新的パスウェイによる普及（発掘）・育成・強化システムを確立する。
- 柔道を通じた生涯発達が、一部の国民にとって有用であることを主張する。
- 多くの国民が柔道に触れる機会を増やす。
- 諸外国の伝統的パスウェイの成功事例にならい、選手強化を図る。

「多様な評価軸を用いた他者や自分自身との挑戦の支援」に関して、全柔連が目指す方向性として適切なものを2つ選んでください。

- 技の習得度や修心の到技の習得度や修心の到達度を評価し、自身の成長を把握できる指標を提案する
達度を評価する指標を提案する。
- 達成感や充足感は、個人の満足度に過ぎないため、評価軸として適切とは考えない。
- 発育発達段階に応じた大会開催を行うと運営上の混乱が生じるため、適用ルールを統一する。
- 柔道実践者の評価軸は、各種大会等における勝敗となるよう、全国的な理解を促す。
- 勝敗以外の成果指標を積極的に提案する。

「個人差を考慮した安全で適切な柔道指導」に関して、全柔連が目指す方向性として適切なものを2つ選んでください。

- 柔道指導を通して、柔道の動きに特化しない多様な動きの獲得を目指す。
- 全ての柔道実践者の自己効力感を高める柔道指導を推進する。
- 個人差を考慮して行われる柔道指導は、人口の多い都市部を中心に展開されるようにする。
- 運動有能感の獲得を目指す指導は、他競技への種目変更を助長するため推奨しない。
- 個人の特性を考慮した指導ではなく、全国共通の指導が受けられるような柔道実践環境を創出する。

柔道実践者が生涯にわたって円滑に活動が継続できるように、どのようなことが提案されていますか。
すべて選んでください。

- 他競技との連携
- 時間的連携
- 空間的連携
- 文化的連携
- 国際的連携

全ての世代への支援ができるために必要なこととして提案していることをすべて選んでください。

- 多様な教育プログラムを用意する
- 長期育成指針を熟知した人材を養成する
- 世界で勝つために競技性を強調する
- アントラージュの量的・質的拡充を図る
- 各都道府県にメッセンジャーを配置して啓発を推進する

到達目標を明確化する修心は身体リテラシーのどの能力に通じているか、正しいものをすべて選んでください。

- 身体的
- 認知的
- 心理的
- 社会的

【柔道で涵養される身体リテラシーと日本における有益性】

身体リテラシーの4つの要素・能力とその内容の組み合わせが正しくなるように選んでください。

	体力やスキル、効率的で効果的な多様な動きを様々な状況下で遂行できる能力	運動・スポーツに対する自信や動機、運動有能感	他者と関わり協働・コミュニケーションする力	運動・スポーツの意義や原理に関する知識を有し、重要性を理解する力
社会的能力	○	○	○	○
心理的能力	○	○	○	○
認知的能力	○	○	○	○
身体的能力	○	○	○	○

【長期育成のための6つのステージ】

ステージ1（0～5歳）における環境・体育・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 体育 | 寝ている時間以外は60分以上座りっぱなしにならないようにする。
運動遊びを体験する機会を増やす。
- 修心 | 組織化された運動遊び（Deliberate play）を通して、創造性の発達を促し、抽象的思考の発達の基礎を作る。他者との社会的交流を経験する。
- 調和 | 礼法の形や挨拶の模倣ができるようにし、習慣化する。
- 環境 | 身の回りの危険が一切ないように安全性を確保する。

ステージ2（6～11歳）における環境・体育・勝負・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 勝負 | 武道の要素を取り入れた運動遊びの中で、勝つ喜びや負ける悔しさを経験する。
- 体育 | 基礎的な体力の発達を促す。過度な競争や強化が助長されて児童への負担が高まることを避けるため、専門的トレーニングや競技会への準備を避けて、地元・地域規模以下の競技会への参加を推奨する。
- 調和 | 道場での相互間での礼法を通して、他者の視点や立場を理解し、個人の尊厳を実感できるようにする。
- 修心 | 問答を通して、好奇心や論理的思考を育みながら自分に正直な意見が言えるようにする。他者との比較のみに偏ることなく、課題に挑戦する「楽しさ」や「達成感」を経験する。
- 環境 | スポーツ倫理に関する基本的なルールを理解する。体系化されていない運動遊び（unstructured play）を経験する。

ステージ3（12～14歳）における環境・体育・勝負・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 勝負 | オリンピックの階級に合わせて、階級を決めて競技会に参加する。練習におけるスキルの発達と徳性の涵養よりも競争の結果を重視する。
- 環境 | Peak Height Velocity (PHV)やモチベーション等から次のステージへ進むか決定する。身長伸びが著しい期間は、こまめに筋骨格系の成熟度の評価を行い、PHVの時期を把握するように努める。
- 体育 | 柔道に必要な体力やスキルの発達を促すために、性差や個人差は関係なく、より専門性の高いトレーニングを開始する。
- 調和 | 自分自身の能力を分析できるようになる。
- 修心 | 精神、認知、情緒の統合的な発達を図る。

ステージ4（15～17歳）における環境・体育・勝負・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 修心 | 精神面、認知面、感情面の総合的な発達を促す。
- 体育 | 発達発育の個人差が認められなくなってくる時期であることから、競技パフォーマンスにこだわる。PHVを基準として、個々の感受性を考慮する。
- 環境 | 漸進的に、挑戦的な状況で競争する。
地元、地域または全国規模の競技会でスキルを発達させる。
- 勝負 | 最適な階級を選択し、国際水準に通じる体力・スキルを高めるための専門的なトレーニングへ段階的に移行する。競技会への準備を学び、実践する。
- 調和 | 自分自身の能力を分析し、柔道領域における経験を通して獲得した知識を、異なる領域の学習に転移し、さらに全く新しい状況の中で生かせるようにする。

ステージ5（18～24歳）における環境・体育・勝負・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 環境 | パフォーマンス柔道では、アスリートとしての可能性を最大化するために、熟練したエリートレベルのコーチングを受ける。
- 調和 | ハイパフォーマンス柔道では、競技会で決まったルール内で礼法を行えばよい。
- 勝負 | ウェルネス柔道では、競技会には参加せず、娯楽的に楽しむ。
- 修心 | パフォーマンス柔道では、デュアルキャリア形成や国際的な視野の必要性を理解し、プロフェッショナルなアスリート（ロールモデル）としての自覚を持つ。
- 体育 | パフォーマンス柔道では、過度な負荷による心身の問題（オーバートレーニング、女性アスリートの三主徴、バーンアウト、スポーツ外傷・障害等）を予防するため頻繁な休憩を導入する。ウェルネス柔道では、身体リテラシーのさらなる発達を意図した活動を継続する。

ステージ6（生涯）における体育・勝負・修心・調和の記述内容で組み合わせが正しいものをすべて選んでください。

- 修心 | 柔道を通して得られた専門知識や専門知識や体験・経験をその後の人生に生かす。社会に益になることを図る。
- 勝負 | 競技会には参加せずに、新たな運動・スポーツ・趣味等を始めたりする。
- 調和 | ソーシャル・キャピタルを形成できるように、礼法を通して文化を超えた調和を目指す。
- 体育 | 1日30分以上の適度な運動・スポーツを実施する。